

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500063		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス前沢		
所在地	〒029-4209 岩手県奥州市前沢区あすか通四丁目8番地15		
自己評価作成日	平成24年 3月 14日	評価結果市町村受理日	平成25年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500063-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0391500063-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成25年3月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員の利用者様に対する声掛けに力を入れている。共感と理解することを常に意識して職員は業務に励み、職員目線の考えを利用者様に押し付けることがないように注意を払っている。そのことで利用者様も、職員から不穏な雰囲気をもたらさず、自尊心が保たれた生活を継続し認知症の周辺症状の緩和が成されている。  
 ・「あたたかい助け合いで笑顔が育ちます」を介護理念とし、利用者間でも自然な助け合いが成される環境を大事にしている。自尊心が保たれることでコミュニティの中で生まれる絆を損なわないよう努めている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは新興住宅地の中央に位置し、周辺には駅、公園、公民館、保育園、大型スーパーなどがあり、自主防犯会や厄年連、商工会との連携等、恵まれた環境を活かしながら外出や楽しみにつなげている。開所以来、「笑顔と共に育つ」理念の下、一人ひとりの力を活かしながら、達成感や満足感を得る場面を大切にしている。現在職員が不足している状況にあり様々な面において困難を生じているが、その分現在の職員は協力しあう意識や利用者への対応・接遇を低下させないようという意識が高まってきている。新興住宅地の住民は若く共働きも多いため、日中の交流機会やホームに対する関心度や理解度において難しさも生じているが、従来からの地区では伝統的な行事や活動が活発に行われており、その地域性に事業所も大きく助けられている。長期的には近隣環境の素晴らしさや発展性、豊かな地域活動などの強みを備えており、職員が重視する利用者への共感と理解、地域との協働を積み重ねていくことで、今後地域に存在感を示す支援拠点となっていくことが期待できる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホーム シリウス前沢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前に介護職員の手で当時入所していた利用者様の言葉をヒントに「あたたかい助け合いで 笑顔が育ちます」という理念を掲げた。日々それが実践できるよう努めている。	利用者が七夕飾りに書いた願いをベースとした理念で、利用者・職員共々に響くものとなっている。職員数が十分ではなく利用者や職員にストレスが生じやすいなかでも、笑顔を忘れないようにという意識が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会員として活動協力をしている。事業所行事に地域の方々にもご参加いただいている。近隣の保育所や地元の厄年連、商工会とも交流がある。	地域の伝統行事となっている厄年連(厄年の人が踊りや屋台運営を実施)と毎年交流があるほか、町内会の一員としてリサイクル活動等に参加したり、近隣の保育園や商工会と交流の機会も得ている。以前は事業所主催の夏祭りに30名近くの来客があったが、職員体制の事情から現在は中止している。地域では新しい住民の地区活動参加が課題となっている。	新興住宅地のなかですぐ近くに公園や公民館、保育園があり、小学校も建つ予定となっている他、商業施設も充実し今後さらに近隣世帯が増えていく傾向にあるなど周辺環境は素晴らしい。この環境を活かしながら、夏祭りの再開等で近隣の住民も含めた連帯促進を担っていくことが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自では行っていない。過去には地域居宅介護支援専門員研修会に発表者として御招待いただき、事業所の取り組み内容を報告したことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動実績報告の場としている。事業所行事のポスターの配布等ご協力いただいている。近隣公民館で行事を開催した際も協力いただいている。	民生委員や町内区長、市職員が委員となり、事業所の助けになることをいろいろとアドバイスしてもらっている。雑談のなかでは地域の出来事も話題として出てくるため、地域の状況把握にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市の担当課長様にも参加いただいている。他、近隣グループホームと合同にて様々な情報をいただけるような機会を得るよう心がけている。	グループホーム協会奥州市ブロックの集まりにおいて市職員から制度改正の説明してもらったり、生活保護の利用者に関して日常的に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠しているが、それ以外の身体拘束は基本的にありえないとし、職員が共通認識を持っている。	帰宅願望のある利用者に対しては会話のなかで他のことに関心を向けている。身体拘束をしないという認識は職員全員がもっており、声の掛け方や利用者との立ち位置などに配慮しているが、今後勉強会を実施していきたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に、ありえない事柄であるとし職員は勉強会を通じて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる可能性がある利用者様は現時点ではいらっしゃらない。制度の理解を得よう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの間、不安や疑問点に対しての連絡を取っている。契約時には解約となる場合の条件についても説明し、またその可能性が出てきた際もあらかじめ説明し、相談をしていただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築を最優先に取り組んでいる。家族や面会者にも意見が表出しやすいよう、質問箱の設置やケアプラン更新時に意見、質問の記入をお願いしている。	家族の訪問時や行事等の機会を通じて問いかけ、積極的に聴く努力や場面作りに努めながら、要望や意見などは前向きに受け止め、「申し送り」に記入したり、出された要望等はミーティングで話し合い反映させている。	事業所に対する家族の関心や協力はあるが、どのようなことを事業所に言っているのか測りかねている印象もある。今後広報などで情報提供の機会を増やししながら、より率直な意見を得ていくための工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と共に介護業務に入り、介護現場の把握に努めている。また職員間での報告、連絡、相談のための申し送りノートを常時活用しており、反映させている。	管理者も日常的に介護業務に当たりながら、職員との対話を重ねているほか、ケア場面における不具合や危険度等についての提案や意見などは早期に話し合い反映につなげている。マンパワー不足はこしばらくの大きな課題となっている。	人材雇用は早急な対応が困難な側面もあるが、サービスの質やリスク管理の点から客観的な問題点を提示しながら法人のバックアップを要請しつつ、様々な手段で人探しを継続していくことが望まれる。また今の時期は現職員が最大限に力を合わせていく好機とも捉え、率直な意見交換をさらに促進していただいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割の作成時に休日希望を全職員に尋ね、可能な限り休日としている。事業所行事などは職員主導でおこない管理者からのトップダウンは極力控えるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として勉強会を開催している。基本的な意識やコミュニケーション技術などは働きながらトレーニングしていくこととし、自己トレーニングを促すため段階的に仕事量を増やすなど工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に入会しており、管理者は交流等おこなっている。また同系列のグループホームが市内と隣接町内にあり、職員は他職員との交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から可能な限り面談する機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、入居前から可能な限り面談する機会や電話連絡の機会を設け、困っていること、不安なこと、求めていることの把握と受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネージャーを介しての入居申請が多く、各々の御事情から他サービスよりグループホーム入居が適している状態の方々の判断され申請時にお話いただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者様と共に摂る。日々の業務になかに常に談話する機会がある。食器拭き、洗濯物畳みなど利用者様が主体の家事がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関への通院援助を御家族様にいただいているところが多く、通院後に共に外食をされたりする利用者様は生活の一番の楽しみとなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年度は地域の敬老会に利用者様の出席を支援している。御家族様に関わらずに利用者様の親戚や友人等の面会も自由に受け入れている。	家族の協力で定期的に自宅に帰る人、春に家族と花見に行く人がいるほか、時々親戚が訪ねてくる利用者もいる。また近隣に商業施設が多く、すぐそばのコンビニや馴染みの美容院、イオン等に定期的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話をしやすい環境づくりを進めていく中で利用者様間の自発的な関わり合いや支え合いが職員も交えて日常になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係の構築の中で希望、意向の把握は常時行ない事業所の日々のレクリエーションや行事に生かされている。	意向は食べ物や外出先に関して多いが、出来るだけ本人と向き合い、共感的に一人ひとりのニーズを見極めながら支援につなげている。女性利用者は職員の配慮のもと、お化粧品や衣服のおしゃれを楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時は御家族様や市町村、使用サービス事業所から情報収集をしている。入居後も継続して情報収集し、失礼にならないよう友人等からも日常会話の中で生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	信頼関係の構築の中で継続的に把握に努め支援に活かされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様へは郵送で計画内容素案を提示し、意見を記入いただける体制をつくっている。	ケアプランの実施状況の記録のほか、カンファレンスを通じて定期的に担当者が作成し、家族には計画案として郵送し、意見欄に要望等を記入し返却していただきケアにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員で個別記録を毎日記入する。それと併用し送りノートも活用し情報共有と考察に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が遠方に居られる場合や様々な都合に応じて行政への申請代行や保険証関係書類の送付先変更など対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体として複数の団体から踊りや歌の訪問をいただいております。そこで知人に再会したりしている。家族との外出も許可しており、一緒に外食をされたりする利用者もいらっしゃる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの、かかりつけ医の利用を基本としている。定期受診以外でも各々の医療機関には相談にのっていただいている。	家族、本人が希望するかかりつけ医受診となっており、職員は「通院相談記録」を基に経過観察、投薬等を共有している。受診は家族同伴を原則としているが、難しい場合は職員の同行で対応している。また毎週リハビリに通っている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいない。かかりつけ医院では、看護師に各々の利用者のケアについて助言をいただくことがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は頻りに医療機関に出向いている。看護師等病院関係者と頻りに情報交換をし、関係づくりに繋がっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療機関において常時、治療を有する必要となった場合は退居の条件としている。終末期ケアはハード面、マンパワー面から現状不可能である。	地域の医療体制のなかで緊急時の往診が見込めず看護師もいないことから、契約時に常時医療処置を必要とする場合は対応できないことを告げている。家族が望む期待や安心に応えられるよう、医療機関情報や施設情報が提供できるように相談体制の充実を図りたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、普通救命講習を受講している。救急車の要請なども実践した職員は流れを把握し次に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。訓練時は地域の住民に参加いただく他、地域の自主防災会より災害時の応援承諾を得ている。	訓練では、消防署からの指導の下、自主防災会からの協力を得ながら実施している。事業所周辺は新興住宅地で、共働きの若い世帯が多く、協力を得る状況には至っておらず、今後、関心や理解を得る具体的な展開を試みたいとしている。	地域の自主防災会からは5人程度が訓練に参加しており、その協力が得られている意義は大きい。今後さらに近隣世帯との協力関係づくりも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が自らの個性と向き合い、照らし合わせて考えていくことで、利用者様の個性の尊重を根付かせ冷静な対応を目指していく。	利用者との会話において優しい口調や怒りっぽい口調の人など様々であっても、理念にある利用者と共に「育つ」の基本に立ち、一人ひとりの個性として理解しながら本人にあった対応を心がけている。また職員の言動で気になる場面があるときには、他職員が注意できるようにもなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が意見、不満、苦情を表出できるよう信頼関係の構築、また、その雰囲気づくりを最優先に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容は本人の望む美容室に通っていらっしゃる方もいるが、職員による散髪を望む方が多勢。望まれた時に散髪している。おしゃれも職員と会話しながら楽しく考えている利用者様が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の食器拭きは利用者様の日課になっている。調理も希望される場合や職員から依頼して一緒に行なうことがある。	食事前や後の作業は3人程度の利用者が率先して手伝っている。家族から食材の頂き物も多く、それが食卓にのることが利用者の満足感にもつながるほか、畑の野菜も「そろそろ食べごろ」と話しながら楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々が水分を充分取れる工夫をおこなっている。栄養バランスは栄養士作成の献立を参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに誘導が必要な利用者様への誘導や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表、生活状況の観察からパターンを把握している。	排泄において自立している利用者が半数いる。チェック表に基づく個別的な対応がこまめに継続されていることが失禁の改善やパットの使用軽減のほか、活動や食事、安眠等への改善や促進にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、水分補給や日々の体操に力を入れている。市販の食物繊維パウダーを料理に加えて工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は暫定の予定者は組むが希望や各自の御予定によって柔軟に変更可能にしており、入浴順番も含め利用者様の希望に添えるよう努めている。	2日に1回の入浴をめどに実施し、毎日希望にも応じている。誘導を拒む利用者もいるが、入浴後は機嫌も良く、全員浴槽入浴でシャワー対応者はいない。職員と二人きりのため、利用者が普段とは違う話をしてくれる場面としても大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室にて落ち着いて就寝できる環境である。日中も滞在場所が居室や和室、ホールなど各々で個々に合わせた場所にて休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時は処方説明書を全職員が閲覧しやすい場所に備えられている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみを行う際、リーダーシップをとる者や助言を受けながら取り組む者など分担が自発的におこなわれている。他にも職員が其々の個性を把握し楽しみごとの提供に工夫を凝らしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活に細かな時間割はなく、その日の希望に沿って職員が援助対応できるような体制をとっている。その中には戸外への散歩やドライブも含められている。事業所行事では中距離のドライブも実施している。	周辺には、コンビニ、公園、100円ショップ、駅、大型スーパー、公民館などが近く、日常的な外出を通して恵まれた環境を楽しみや満足感につなげている。畑作業ではトマト、茄子、きゅうり等の栽培を楽しみ、収穫期には食卓を賑わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を優先に考えており、現金所持されている利用者様もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様への電話を希望される利用者様の希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎる照明を当てない、天井を高くする、大きな窓を設置する、風の通りを良くするといった工夫の他に、キッチンからの御飯が炊ける匂いがすぐ届くようにといった工夫をしている。	全館暖房と天窓を組み込んだ空間は明るく空調も程よく、くつろげる畳コーナーもあり、車や電車の往来も居ながらに眺めることができる。空間は、桜をテーマにした共同作品一色で、キッチンでは職員の掛け声にお手伝いする利用者、テレビの相撲に興じる利用者など、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。	事業所が面する道路は車どおりも少なく、子供連れの近隣世帯が散歩を楽しむのうってつけの環境となっている。その通りに駐車場が広く面しており、ベンチや花を植えたプランターの設置等で利用者の外気浴や住民との交流機会にもつながると思われるため、工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や窓辺のスペースなど居室以外でも個々に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約前の居室には中型のダンスとカーテンのみの設置としており、ベッドなど好みのもので持込いただけるようにしている。	馴染みの椅子や時計、姫鏡台などを設置していたり、近親者の遺影や誕生祝いプレゼントを置いている利用者もいる。また好きなタレントの写真を花模様折り紙で包み飾って、数か所に貼っている方もおり、居心地よく過ごせるよう居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台には車椅子利用者でも届きやすい高さになっている箇所がある。廊下やトイレには手すりや立位バーが設置されている。浴槽には着脱可能な立位バーや補助椅子がある。		